

## 品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定

### 「スポーツ」懇話会(グループインタビュー)に関する報告

#### 1. 実施目的

この懇話会(グループインタビュー)は、品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョンの策定にあたり、区内で活動しているスポーツ団体の関係者(代表者等)に、活動の実態や現状などを伺うために行ったものです。

#### 2. 実施日時・場所

平成 21 年 6 月 19 日(金) 14:00~16:30 品川区役所第 2 庁舎「251 会議室」

#### 3. 参加団体(5 団体) 敬称略

- |                  |              |
|------------------|--------------|
| ・品川区トリム体操連盟      | 白柳 佐紀子 (理事長) |
| ・大崎オーソルサポーターズクラブ | 矢内 浩 (代表)    |
| ・品川区グラウンド・ゴルフ協会  | 長坂 健一 (会長)   |
| ・品川区水泳連盟         | 美尾 軍治 (理事長)  |
| ・財団法人品川区スポーツ協会   | 藤本 賢 (理事長)   |

#### 4. テーマ

- ・各団体のプロフィール
- ・各団体が目標や理想としている組織像・活動等
- ・各団体が抱えている課題や問題点  
会員の拡充、継承者の育成、新旧住民の交流(新住民の加入促進)など
- ・「品川ならではの」「品川らしさ」について
- ・スポーツ活動を盛り上げるために必要なこと  
自団体が貢献できること、他団体等との連携・協働のあり方など  
「スポーツレクリエーション推進委員会」「地域スポーツクラブ」のあり方など
- ・スポーツの振興を通じた品川区のまちづくり  
にぎわい、こころの豊かさ、交流など

## 参加団体概要

団体名	品川区トリム体操連盟
代表者	山口 紋次
設立年月日	1976年(昭和51年)9月1日
団体の目的	中高年の健康維持増進
団体の特徴	品川全域36クラブ設立、週1～2回体操実施

団体名	大崎オーソルサポーターズクラブ
代表者	矢内 浩
設立年月日	2004年(平成16年)7月1日
団体の目的	大崎オーソルの応援
団体の特徴	女性会員が多い

団体名	品川区グラウンド・ゴルフ協会
代表者	長坂 健一
設立年月日	1998年(平成10年)4月1日
団体の目的	会員の健康維持。グラウンド・ゴルフ技術向上。普及指導。
団体の特徴	仲間意識が強い。だんだん昂上心が生まれてきている。

団体名	品川区水泳連盟
代表者	美尾 軍治
設立年月日	1970年(昭和45年)4月1日
団体の目的	区民皆泳
団体の特徴	5才児～90才(最高齢94才)

団体名	財団法人 品川区スポーツ協会
代表者	理事長 藤本 賢
設立年月日	1994年(平成6年)4月
団体の目的	「品川区のスポーツ・レクリエーションの振興と明るい地域社会の形成」
団体の特徴	スポーツ、レクリエーション関係の27団体が加盟している。

### スポーツ懇話会を通して

品川区において、スポーツ活動を推進する、多様な団体、企業の意見を伺うことができた。この懇話会を通して、「品川人」の特徴や、人が集う・人を育成するといった「ひとをつなぐ」ことの思いなどのさまざまな視点を得られた。

今回の意見は、次のような分類によりまとめた。

- 資源の多様性
- 連携、協働の現状
- 情報発信・収集の現状
- 環境、機会の現状
- 人材・育成の現状
- まちづくり

### 資源の多様性

さまざまな分野のスポーツ団体や企業のクラブチームが活発に活動している。各種大会での活躍もめざましく、文化芸術同様、品川区には「スポーツ」についても、多様な「資源」が存在している。

< 多くの会員が自分の健康づくりやスポーツ活動を楽しんでいる >

白柳さん(品川区トリム体操連盟)

区民が立ち上げた会。自分たちの健康は自分たちで守ろうということで、区内の小中学校の体育館を夜借りたり、文化センターのエコホールの体育館を借りたりしながら、昭和 51 年にトリム連盟を結成した。そのときは 8 つぐらいのクラブだったが、今は 36 団体 1,500 名になっており、中高年の健康維持ということで行っている。

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

グラウンド・ゴルフは、今から 20 年ぐらい前に日本(福岡県)で始まった。今 50 代、60 代、70 代、80 代(の会員が多く) 大変活気がある。高齢者パワーはすごい。

始めたときは 30 名ぐらいだったが、現在は 250 名ぐらいに増えた。フランチャイズ制により各地区にクラブを作っている。品川は、荏原、大崎、品川、大井、西大井、八潮と、まとまった地区があり、そこに一つずつ作った。現在 8

つのクラブがある。東京都の団体の中で一番多い。

美尾さん(水泳連盟)

昭和 45 年、荏原文化センターに温水プールができたとき、区民皆泳を目的として連盟を作った。私が入ったころは、自主大会 2 本、区の大会を 2 本をやっていた。それから 5~6 年後、旧社会体育が区民の初心者教室の児童、婦人、勤労者と 3 本 8 回の教室で年 3 回ほど指導に入った。その後、区民の生徒さんたちから、継続できる教室を作ってくれと(要望があり)、その受け皿として連盟の自主事業が 14 本から 27 本になった。現在は、週 1 の教室が 6 本あり、そのほか役所やスポーツ協会からの委託事業のあり、全部で 60 近い教室をやっている。

品川区で水泳連盟が一番誇れることは、まだ東京都では障がい者水泳教室をやっていなかったのを、昭和 48~9 年ごろから、やり始めたこと。

今現在、会員が 3,500 人とちょっと。普通のスイミングクラブより会員が多いのではないかと思う。

< 企業クラブチームが活躍している >

矢内さん(大崎オーソルサポーターズクラブ)

大崎電気の手ボール部のゼネラルマネージャーとサポーターズクラブの事務局を兼ねている。(大崎電気の) 本社は五反田にある。チーム自体は埼玉県入間郡にある。選手の 99% は埼玉で活動している。1960 年に創部して来年で 50 年目を迎える。全国大会の優勝が 43 回。国内で最初にハンドボールのチームを立ち上げた。昭和 36 年、女子(のチーム)も作ったが、2000 年から休部。

サポーターズクラブを 2004 年に立ち上げた。地元の住民を巻き込んでサポートしてもらおうとはじまった。現在 600 名ほどの会員がいるが、埼玉の地元の会員は少ない。ファンを巻き込んで、自分たちも頑張らなければと、サポーターズクラブを立ち上げている。5 年後、10 年後に、Jリーグやプロ野球のように皆様から愛されるような団体になりたいと思っている。

## 連携、協働の現状

「地域密着型」として地域との連携や、学校・行政との連携を意識して活動している団体、企業が多い。具体的な事例も多く見受けられる一方、連携がこれからの課題としても挙がっている。

### < 団体同士の連携の変化 >

藤本さん(スポーツ協会)

昔は(施設が)いっぱいだったら、チーム同士で2つなり、3つなり同じ種目を一緒にやろうとって、練習をやっていた。今は、たまに体育館でバレーボールをやっている、5人くらいでやっている。それはもったいない。

昔は学校が全部有料で夜使えなかった。(使える時間が限られていたし、借りる手続きも)学校へ行って、空いていれば書類を持って行って(と煩雑だった)。それほど昔は苦勞をしていた。今の人には簡単にお金をもっと払って、少ない人間で、うちのチームが使うからとって、ほかのチームをあまり入れない。それでいっぱいだと。昔は、同じ種目だったら、3チームも4チームも一緒になってやっていた。

### < 団体と地域(町会)の連携 >

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

今のところちょっと弱いのは品川と大井。そこで拠点を作って、もう少しクラブを増やして、町会に声をかけて、そこで同好の士を募って、チームを作ってもら、クラブを作ってもらということをこれから考えていって、町会の一つの大きな活性化につながるのを、やっていきたい。

### < 団体と学校との連携 >

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

これから考えていきたいのは、小学生へのグラウンド・ゴルフの普及。現在は、学校のPTAさんに頼まれて無給で教えに行っている(4カ所)。

### < 地域団体とスポーツ・レクリエーション推進委員会の連携 >

白柳さん(トリム連盟)

会場を決めるのが、毎月 1 カ月前の 5 日と決まっているが、スポレクの会議に行かないと会場を確保できないし、ほかのクラブとの交流は、時々スポレク全体で会長さんもいらっしゃるから、いろいろな交流をやったり、ほかのバレーボール、バスケットボール、卓球、バトミントンの方たちとも交流できるようなことはやっている。会員の中には参加している方もいる。

#### < 企業と地域の連携 >

矢内さん(大崎オーソルサポーターズクラブ)

「地域密着型の相互型クラブチーム」を目指している。ただし、なかなか現実的にやはり難しい面がある。市民の皆さんに入会金を払っていただいて、チームを応援していただくといった活動をしながら、地元の商工会の皆さんのイベントに参加したり、地域のそういう活動に積極的に参加したりということ、徐々にやっている。

地元(埼玉)のみずほ台には、夏祭がある。そこに去年からゲスト出演した。地元の皆さんから大崎電気って、どこにあるの、どこで練習しているのという声がいっぱい聞かれたので(出演した)。私たちは知っていただいていると思っていたが、意外と認知されていないというのが現状だった。アンケートをとってみたりしてようやくわかったが、自分たちが出ていこうとしないと思ってもらえない。宮崎(選手)を一つのきっかけとして、どこからでもいいから火がつけばいい。

(夏祭では)抽選会をしたり、ユニホーム姿で出ていくことによって、子どもたちに結構集まっていた。(その中には)教えている子もいたので、いつも教わっている人とかうやうや一緒に遊べるんだと喜んでもらったのが次のステップにつながるのかなと思っている。

#### < 企業と行政、住民の連携 >

矢内さん(大崎電気)

2004 年にサポーターズクラブを立ち上げたとき、「三位一体」を考えた。企業と行政と住民が手を組まないとなかなかうまくいかないだろう。

いくら企業が大きい声を出して、皆さん頑張りますといってもなかなか伝わらない。行政を絡めようと思うと、慣例で慣例で、とよく言われて、そういうものも難しいんですねとか、予算がないんですよという話になる。その辺をうまく、企業がお金を捻出して、うまく組織の中に組み込んでいけば、あと住民にやる気があるかないか、応援したいという気が起これば、少しでも変わってくるのではないかと。

## < 行政の支援と協働 >

白柳さん(トリム連盟)

私どもは補助金をいただかないで活動をしているが、広報に載せていただくことと、指導者養成の 10 万円は昭和 50 年代からずっといただいている。あとは私費でやっており、30 年以上たつ。実績を買われて、健康塾という委託事業をさせていただいている(平成 9 年から)。最初は 5 教室から、去年までで 20 教室、活動している。

藤本さん(スポーツ協会)

中央区とか千代田区というのは、企業の町だが住民がいない。役所が(学校開放、体育館開放を)やっているのは品川区ぐらい。体育館を作るときに、千代田区や中央区に聞きに行ったら、全部連盟に任せている。きょうはバドミントンだったら、明くる日が卓球でもいい。その入場料は教育委員会に、このくらい取っていいかというお伺いを立てる。それで、あとは体育館使用料みたいな感じで、いくらかずつ払って、それ以外の残りは連盟で分けたりしている。

品川も昔の戸越の体育館しかないときには、火曜日がバスケット、水曜日がバレーをやった。あの時に卓球とバドミントンは区でやっていた。区で大人 30 円とったときに、協会は大人 100 円取った。それでも大体 120 人ぐらいきていた。

文京では、ヨネックスが体育館を使いたいから、前半は区民サービスで一生懸命教えているらしい。ヨネックスが世界チャンピオンになったころは、高級な選手の練習をただで見られると(人が集まった)。品川ももう少し連盟に話をして自由に体育館を使わせたほうが、参加者が結構集まるんじゃないかなと思う。お金はある程度取って、それだけ還元してやらなきゃだめ。還元してやれば、参加者もいっぱい集まってくる。

## 情報発信・収集の現状

広報紙や区のパンフレットを活用する一方、クチコミでの情報発信も多い。ケーブルテレビの反響が大きいことは、スポーツ・文化芸術ともに同じ様子である。

### <ケーブルテレビの反響大>

藤本さん(スポーツ協会)

ケーブルテレビが戸越銀座商店街のバスケットボールを追いかけた。最近ケーブルテレビをよく観られている。そのチームには50人ぐらいの選手が集まった。すごいよ。バスケットは5人しか出られないので、50人集まったってしょうがないが、ユニホームはテレビに映るからというので、いいものをつくっている。

ケーブルテレビは「地域の活動」といって、戸越銀座商店街の若旦那たちが多かったからやったんだと思う。(そのチームが)偶然区民大会で優勝した。区民大会というのは連盟の試合から見れば半分以下のレベルだが、品川区で優勝したと出たので、選手がものすごく集まった。

### <区の広報紙やパンフレットを活用>

白柳さん(トリム連盟)

品川区の広報の1日号に2クラブずつ載せていただいているが、広報で見える方はあまりいない。

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

(新しく越してこられて、まだ数年間しか住んでいないという方も協会に入っている。今、行政(地域活動課)とお付き合いがあり、町会に入るパンフレットを、品川区で初めて去年から今年にかけてつくってくれた。町会というのは一番メイン。下は乳幼児から年寄りまで。そこら辺のうまいつながりかたもおおいに必要ではないか。広報でははっきり言って人は集まらない。(広報を見てきた人には)2、3人行き会えばいいほう。品川区でグラウンド・ゴルフをやったが、来たのは3名。そのうち2名は協会の会員だった。

### <クチコミが大事>

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

やはりクチコミも大事。町会を通すとかいろいろな機関を通してPRして。グラウンド・ゴルフの教室をやっているの、それも認知してつながりをつけて、組織を広くして、品川区全体にいろいろなスポーツが浸潤し、それが振興すればいいと思う。

白柳さん(トリム連盟)

会員を増やすということで、チラシを作ったり、ポスターを作ったり、パンフレットを作ったりしている。ただ、どなたも口をそろえておっしゃるのは、クチコミ(が多い)。

環境、機会の現状
----------

区内、都などでの大会の場への参加も多い。施設利用などの環境においては、より拡大を望む声も聞かれた。

<大会の場>

美尾さん(水泳連盟)

級が上になって泳げるようになると、東京都の大会(9月第一日曜日)があり、30人ぐらい(協会の指導者が教室で教えている)生徒が出場する。協会の指導員も出る。ある程度自分の腕が上達すれば、そういう大会、マスターズ、伊豆半島や鎌倉の遠泳大会へも、うちの指導員がついて出ている。

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

(グラウンド・ゴルフ人口は)増えている。東京は今3,000人ぐらい。(全国で)一番少ない。千葉、埼玉、群馬は大体5~6万人いる。そこで大会を重ねて、トップに立って、関東ブロック大会とか、全日本大会に行く。

<設備の充実、行政への要望>

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

幸せなことに、品川区は小中学校に夜間照明をつけてくれた。ついているのは品川区だけ。ほかにはどこにもない。西東京のほうからバスで東京の大会に出てくる人と「うらやましいな」と(言われる)。品川区にはナイター設備がある。小中学校についているところは他にないと言われてびっくりした。

昼間は子供たちが学校の校庭を使って、夜は地域の人たちが使うという考え方で始められたと思うけれど、今は完全にそれを使わせていただいて、毎週 2~3 回、年間で 100 何回練習している。

品川には草の生えているグラウンドがない。人工芝のグラウンドでやっている。あとはフェアグラウンドの学校のグラウンド。日本の大会へ行くとそういうところは一切ない。芝や草（のある場での）大会に慣れておかないと、上位に出るのは大変難しい。

美尾さん(水泳連盟)

品川区には区自体の体育館の温水プールがない。そのため、みんな学校施設、学校施設と言われる。学校によっては、6月の初めから学校がプールを使用し始めてしまい、10月半ばまで空かない。(水泳)教室が、4ヶ月くらい出来なくなってしまう。

戸越台中の温水プールができたときには、最低でも6月16日から9月15日まではシーズンで、貸し切りはなくなると決めた。それが今、6月の初めから9月いっぱいまで(になっている)。夜は学校を使えないので、ほとんど2ヶ月、7・8月休むだけで年10ヶ月できるのが、年8ヶ月では教室にならない。せっかく伊藤学園ができて、副校長さんから水泳が年間できる学校だから助けてくれと言われて指導員派遣をやったが、話が全然違う。

今は八潮、日野、戸越台、江田の分だけは区の施設だが、稼働床(床が上下するところ)でないと、子どもから大人まで使うのはものすごく不便。そのため、あそこでやっていた教室も、8割近くを伊藤学園へ持っていったが、学校が戸越台よりももっとひどい使い方をしているので、2年間は赤字でもしょうがないといっていたが、本当に2年赤字になっている。

連盟としては40近く事業があるのを、必ず繰出金を出すようにとやっている。ただ、小中学生のコースと、A・Bコース(荏原と日野学園の第九と第二、第四のどこかで他区から転校をしてきても、いつでも水泳教室に入れますという枠)は毎年両方で15万円くらいは赤字。やはり今は学校が温水プールをせしめているので。学校は区、地域のためにもあるんだから、品川区の施設なんだからという制度を、行政にもっとはっきり言ってもらいたい。

#### 人材・育成の現状

会員同士が集い、たのしく仲間づくりやスポーツ活動を行っている。一方で、新規会員(主に若い世代)を増やすことを課題と感じている団体が多い。また、選手・指導者の育成などに課題が見受けられた。

< 仲間づくり >

白柳さん(トリム連盟)

一番いいのは、何といってもクラブ組織だから、どこかへ行って個人で参加するのではなくて、クラブの中でいろいろ行事をしたり、ハイキングや新年会、クリスマスをしたりしている。仲間づくりができています。

< 活気がある >

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

うちはなにしろ年寄り。そう言うと怒られるけれども、今 50 代、60 代、70 代、80 代ということで、大変活気がある。高齢者パワーというのはすごい。意見はどんどん出し、言いたいことは言う。まとめるのは大変。最初始めたときは 30 名ぐらいだったが、現在は 250 名ぐらいに増えた。

70 代でも元気。各クラブ 40 名、50 名が集まって組織を作って、そこで練習し、大会をやり、上部団体である品川区グラウンド・ゴルフ協会の大会に参加する。その結果、今度は東京大会、全国大会がある。特に去年は旗の台の女性(60 歳)が、レディース全国大会で優勝した。みんなその女性につられて向上心が出て、そういう大会に出ることが増えた。

女性のほうが大変うまい。品川の男性はちょっとだらしなくて、女性のほうが元気がいい。全体的には 50 代は少ないが、50 代の人々が今、各クラブに 4~5 人ずつ増えてきているので、大きな望みになっている。80 歳以上も頑張っていて、東京大会に出ると張り切っているおじいさん、おばあさんもいるので、この間も大会をやり、後期高齢者賞というのをつくって表彰をした(笑)。頑張っ

< 幅広い年齢層の会員が楽しんでいる >

美尾さん(水泳連盟)

(水泳を習っている)生徒が 3,500 人。下が 5 歳から最高齢が 94 歳の方。その方は、全日本のマスターズで理事をやった去年の大会に出たので、栄誉賞を送らせていただいた。

基本的に、選手コースというのは中学、高校生が、小学生からやっているもの。みんなの健康と友達づくりのための教室がある。競泳を目的とした人は成

人ではない。ただ、本人の級が上になって泳げるようになると、大会がある。ほとんど夜間は家庭の主婦と、あと品川区の会社勤めをしている人が、他府県の人で何名かいるがあとはみんな地元住民。

<品川人らしさ「品川人はおせっかい？」>

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

うちの場合、一番人に誇れるのは「人の輪」。相互力が大変強い。6月13日に400人集めて、東京都23区大会をやったが、大変好評を受けた。僕は品川らしさを出しながら大会をやりたい。品川の住民は、お節介が多いし、人の面倒を見ることが大好きなので、それに力を入れていろいろな大会の運営でも何でも、新しいアイデアを入れながら楽しくできるように、これからも考えていきたい。

<若い人が入ってこない、会員を増やしたい>

白柳さん(トリム連盟)

今の私たちの悩みは、会員の高齢化。昭和50年のころは30代、40代の会員が、何も運動をする施設もなかったので(入っていた)。その後10年、20年経つと、あらゆるスポーツのセンターもできてきたし、社交ダンスをはじめ、ヨガ、太極拳などの教養的な運動も始まった。今は36団体で1,500名ぐらいいるが、だんだん高齢化してきている。若い人が巷のスポーツセンターのほうに行ってしまうので、そこを何とか食い止めていきたい。

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

課題は、やはり会員を増やすこと。品川区として、東京都ないし全国に対応するが、何分会員が少な過ぎるので、できるだけそれを増やさなければいけない。そのひとつとして、品川区のグラウンドの調整機関であるスポ・レク委員会と、このメンバーが品川区に散らばっているので、そこによりよく連携をして、特に体育指導員さんにもっといろいろと勉強してもらって、力を借りたい。

<指導員の育成が困難>

美尾さん(水泳連盟)

今、一番水泳連盟が大変なことは指導員派遣。7月21日から8月いっぱい間の20日間、小学校(今年37校)のプールに2人ずつ指導員が入って、水泳指導を朝9時半から3時まで行う事業で、指導員派遣をするのに大変な思いを

している。130人ほどの指導員が登録しているが、実際に動いている人は70人から80人、最大100人くらい。

品川区水泳連盟独自の講習会「指導員養成講習会」(の参加者)が、ここ10年は10名以下。A級から学科も試験と実技試験をやるが、去年は5名のうち2人はやっと泳げるぐらいの若い子が来たが、とても指導員にはなれなくて一応3名の指導員が残った。

一番いたときは200名近く指導員がいたが、それだとちょっと統率もとれないし、事業も大きくなるので、各事業担当(2人ないしは3人)がお互いに信頼関係で責任を持たせている。

<小中学生に魅力を感じてもらおう>

矢内さん(大崎オーソルサポーターズクラブ)

ハンドボール人口が今、全国で10万人とうたわれている。ハンドボールはバランスのいいスポーツ。投げる、飛ぶ、走るという3拍子が入っている。接触もある程度あるので、身体の体幹を鍛えないとなかなかできないスポーツである。小学生にそれを求めるとドッジボールから入るので、初めはやはりボールゲームの遊びから入って、ドッジボール連盟さんと共同でやり、その子たちにいかにハンドボールの魅力を知ってもらおうか。

小中学校の指導要綱で授業に入るようになってきているところもあるので、今は、埼玉県にお願いして、小学校の授業に私どもの契約選手(6~7名)を派遣して、それをきっかけに大会にきていただくようなことを今企画している。

去年は、文科省の推薦で水戸の小学校のチームと、埼玉県の八潮小学校で、1時間の授業をやらせていただいた(5・6年生170名くらい)。バスケットシートを打ったり、7メートルコンビでやって、というおもしろいことだけを体験していただいて、苦しいことは一切やらせない。今の子どもというのは集中力が意外とないので、すぐに飽きてしまう。きついと、いやだとすぐに顔に出るので、うまく笑いを取りながら、少しずつそういうハンドボールの魅力を知ってもらおうとしている。

<スポーツのレベルアップを>

藤本さん(スポーツ協会)

品川は品川で生きていかなければいけないんだから、初心者の人たちでも(ただ、体力づくりでやっているならいいけれども)、もうちょっとうまくなりたいという人が絶対にいると思う。そういう人と連絡をとって、スポーツ協会の各

クラブに入れてくれば、品川のスポーツ協会のクラブの連中ももう少し実力がつく、レベルが上がっていくんでないかと思う。

#### < プレーヤー育成の必要性 >

矢内さん(大崎オーソルサポーターズクラブ)

チーム力を上げていかないといけない。日本ハンドボール協会はプロを認めていないので、JOCからはアマチュアですときつく言われている。社員選手とプロ選手をうまくミックスして、外国人だけは入れないという純潔を守りつつ、ナショナルチームが強くなるためには、日本人のいい選手を育てないといけない。

個人的には日本の今の若い選手の弱い面というのは、どうしても自分の中の敵に負けてしまう。相手と戦う前に自分が折れてしまっている子が多い。水泳の北島康介さんみたいに、絶対に勝つんだと言い切れるような自信があれば口に出せる。出すからやらなければいけないと自分を追い込む。今の若い子にそれを求めると逃げる。

僕らの時代は、日本人の名誉のために戦いましょうという思いがあった。そういうところも含めて、今の若い人たちに、夢と希望をどうやって与えようか。頑張ればオリンピックに出られるというのも一つ。ただ、苦しいことをもっと言ってしまうと、先ほども言いましたが絶対についてこないで、年代で使い分けているところ。

#### < レベルの高い選手のプレイを見、教わる機会があれば、参加者も増える >

藤本さん(スポーツ協会)

(例えばお金を払ってでも、レベルの高い選手のプレイを見る機会があれば、もっと参加する方も増える) それと教えてやることもできれば。教えることも連盟が責任を持ってやる。(たとえば時間によってレベルを分けて) 7時から7時半まではこのくらいのレベルの人間、7時半から8時まではこのくらいのレベル、8時過ぎは大勢で。2面あれば、1面は厳しくやって、1面のほうは自由に使う。あとは見ているか、自分の健康のためにやる方。そういうふうに分けて、連盟にも責任を持たせないで。

#### < 企業の支援維持の難しさ >

矢内さん(大崎オーソルサポーターズクラブ)

(小学校、中学校でハンドボールを体験した人が、学校を卒業した後に競技をする機会が少ないことが)ネックになっている。小学校から大学まで続けて、あとやらないというのが大半。実業団チームが、2000年のバブル崩壊までは関東に女子のチームが6チームほどあったが、今は一切ない。大崎電気の男子が1チーム残っているだけ。バランスの悪い地域性になっていて、愛知県に4チーム、トヨタ系列のチームが4チームある。今は自動車業界が調子が悪いので、日本リーグを撤退したりとかいろいろな状況が出ている。

ハンドボールの場合は、20名前後の選手を抱えるので、1シーズン大体日本リーグでやると、1試合100万円くらい移動費と宿泊代がかかる。単純に10チームで2試合ずつやって18試合やると、半分の9試合で900万円くらいのお金が出ていく。それが毎年ということになると、会社からはいいかげんにしてくれ、勝ったから何があるのと言われてしまう。地域貢献とか、CSR、社会貢献も考えないといけませんと方向性を変えて、会社の役員をまず納得させないと株主さんも納得させられない。

< スーパースターを軸に >

矢内さん(大崎オーソルサポーターズクラブ)

宮崎大輔というスーパースターが出て、全国に女性ファンが多くなった。彼はハンドボール界をメジャー化したいという大きな夢がある。スーパースターは作り上げようとしても、なかなか作れない。彼が持って生まれた素質と、人を引きつけるオーラは彼が持ち合わせたすごいところ。そういう選手がいるときに、いろいろな意味でスポーツ界がメジャー化していかないとハンドボール界もだめということで、ファンの方を巻き込んで、自分たちも頑張らなければと、サポーターズクラブを立ち上げている。

< 新住民、こどもたちはどこに... >

藤本さん(スポーツ協会)

(品川区は新しい住民の方も増えているので、そういう方たちにも入ってもらえたら)それも、増えたらいいんだけど、うちの近所は全然増えない。うちのマンション、僕のところは48世帯なんですけれども、入れ代わりはするけれども、子供のいる人がいない。だんだん年寄りが入ってきてしまう。最初は、若い人が住んでいたけれども。今はお年寄りが多い。

品川も荏原のほうは学生が少ない。旧道筋は結構いる。うちの宮前は1年生16人になっている。戸越小学校が8人だとか。中学校だって四中は熱いからと

いって、プールもあるからとほとんど戸越台へ行ってしまっている。お祭りはうちのほうは国道を上がってこない。だから、全然人がいないような感じ。

#### < 企業スポーツ：埼玉での事例 >

矢内さん(大崎オーソルサポーターズクラブ)

埼玉の三芳町に工場がある。その埼玉県西部地区の中学校にはハンドボールのクラブが1校もないという悲惨な現状がある。2008年に高校総体が埼玉県であり、和光市、朝霞市、あの辺がハンドボールの会場になった。小学生たちが集団で応援に行くことがあり、ハンドボールをやりたいという思いが親御さんを通じて、地域の学校の先生に相談がまず上がった。昨年9月から朝霞第六小学校の体育館にセーフティマットを立てて、お母さんたちがゴールらしき物を手作りして、子どもたちがボールを投げていく。それでも楽しそうにやっていた。

それでは、ちょっとかわいそうだなと思い、今年1月に私どもの会社の専用体育館にその子たちを集めて、本格的なゴールに向かってシュートを打つということを経験させたら、これがハンドボールですかと、ちょっとずつわかっていただけた。宮崎とかうちの選手が教えることで、現役の選手に教わるという、普段は経験できないことが、すごくその子どもたちにインパクトを与えた。そこから、近隣の小学生チームにお声をかけて、3チーム合同の練習を100名前後を集めて2回やることになっている。

最初に子どもたちに教えたのが、まず、大きな声で「ありがとうございました」というあいさつ。学校だけで教育しても当然無理。家庭で親が、ちゃんと自分の子供を叱れるということが、今は少なくなってしまったというか、やはり核家族化が進んで、おじいちゃん、おばあちゃんと一緒にいない子たちが、甘やかされて育っていると、そうになってしまうのだろう。ただスポーツの世界は厳しいルールのもとでやりましょう、と最初に約束事をしている。やはり教わりたいという気持ちが強いので、それは必ずやっていただける。それから、楽しいハンドボールを段階をうまく踏んで、子どもたちに心を開かせつつ、厳しさもちょっとずつ教えつつ。そういうことをしていくことによって、小学校、中学校、高校とつながってやっていただける。それが地域密着型をやっているとしたときに、基盤になるのではないか。

今までの、自分たちが勝てばいいという企業スポーツから、地域密着型に子どもたちにおろしていく。実業団のチームはそこまで、なかなかできなかったが、いま子ども目線まで下ろしていくことをしている。その競技団体に子どもたちが入ってきてくれないとか、会員を増やすために、どういう切り口でやっ

ていこうかというのが、これから企業スポーツが生き残る側面だと思う。

#### まちづくり

品川区のにぎわい、スポーツ振興を通じたまちづくりのイメージとして、年齢を問わず、幅広い年齢層が生き活きと楽しめることや、子どもたちへスポーツを教える環境、教える人材(大人)をつくる環境を整えることによって、全体的にスポーツ振興へつなげたいといった希望が寄せられた。

< 年齢を問わず、スポーツ活動を通して生き活きとしている姿 >

白柳さん(トリム連盟)

トリムは体と心のバランスなので、ただ体を動かしているだけではない。50~70代になるとご主人や奥さんを亡くす方たちも多いが、その方たちがここにいて、本当に助けられた、よかったという言葉が随分聞いている。最後の合い言葉は、元気でPPK(ピンピンコロリ)を目指している。

会員にはやはりお節介お婆さんは多い。70代でも積極的に何でも参加している。例えば町会の役員をするとか、何か月に1回再生できるものを集めてくださるとか、そういうことにもちゃんとかかわっていただいている。だから、いつまでも体が動くうちは、皆さん貢献しながら仲間づくりをしていっているのではないかと思う。

< 受け入れ体制を整えて、より多くの区民が健康に活動している姿 >

美尾さん(水泳連盟)

水泳連盟としては、指導員を100人ぐらい(に増やしたい)、3,500人の会員がいるが、半数が2教室に入っている。学校プールがもうちょっと使えるような事業ができれば、もっと会員が増えると思う。

小学生から会員にしていけば、成人になっても(世帯を持っても、子どもがある程度大きくなれば)、自分の体のために(続けるだろう)。そのためには私どものほうが、ある程度体制を作っていないといけない。

あとはコスト面を行政側が頑張ってもらっていただければ、会員もふえるし、区民も健康で、お国の健康保険の補助が少なくて済む。

水泳をやりたいと思っていらっしゃる方は、もっと多くいらっしゃって、受け入れる体制を整えば、より一人でも多くの方が健康に過ごして、活動に参加

できるそういったようなイメージ。

< 子どもたちを指導する大人を増やす環境を整えて、スポーツを通したにぎわいへ >

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

グラウンド・ゴルフは、まだまだ今延びる盛り。会員が1年に4~50名は増えると思う。それを見越して、学校の校庭開放を使って拠点づくりをすることが当面の目的。子どもらに出てきてもらおうと同時に、お父さんがよく出てくるが、なかなか務まらない。コーチに来て半年もてばいいほう。

でも、少年野球とかサッカーを見ると頑張ってるよ。会社に勤めて帰ってきて、夜の練習にはちゃんと出て(子どもたちを指導する) そういう若い子が30代にまだまだいる。そういうコーチを大事にしたい。子どもには結構厳しいが、かえって厳しいコーチのほうが、子どもたちにはもてる。コーチをやっている若い人からいろいろな悩みを聞くが、これからも頑張ってるよ。

グラウンド・ゴルフも、若手をまず入れるということが至難の技。少年野球のコーチが、自分でプレイできなくなったらグラウンド・ゴルフに引っ張りこもうと思っているが。

< スポーツの接点を増やし、教わる機会を増やし、あるいは教える人を育てる >

藤本さん(スポーツ協会)

もっと中身の濃い指導をしなければだめ。下のレベルに合わせてけがのないように、というのではなくて、もっとやりたいという人がいるので、時間を決めて分けてやっていけば、人は集まる。子どもも、30代も。

最近、体育館に集まれば、帰りに仲間で一杯飲んでいく飲み屋さんが多かった(笑)。昔は飲みさんがなかった。やはり30代の方は飲み屋を兼ねてやらないとだめ。

< 品川人の誇りはにぎわいにつながる >

長坂さん(グラウンド・ゴルフ協会)

品川生まれは品川に帰りたい。うちが狭いもので親と同居できないが、自分で生まれ育った土地に、できるならば親と一緒に住みたいと思っている。現状はできない環境ではあるが、帰りたいという気持ちは彼らはみんな持っている。

そこに大きな救いがあるのではないかと思う。

地元に戻ってくると仲間がいる。例えば、年 1 回のお祭りにみんな帰ってくる。僕はこれをふるさと志向だと思う。1 年間働いて、そんなお金を持って町に帰ってきて、一緒に飲んで、歌をうたって楽しんで、神輿を担いでいる姿は、エクスタシーというか、本当陶醉している。そういう若いものがまだ一杯いるので、日本はまだ捨てたものではないと思う。

以上